



さちが丘小学校 学校だより

若竹

10月号

令和5年9月29日

横浜市立さちが丘小学校

校長 高浜 正太郎

TEL.361-0777 FAX.361-0787

WEB ページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sachigaoka/>

防災意識を高めて

校長 高浜 正太郎

厳しすぎる残暑は9月に入ってもなかなか収まる気配なく続いていましたが、今週に入りようやく秋らしい気候となってまいりました。

本校では、9月1日「防災の日」に総合防災訓練を行いました。防災の日は今から63年前の1960年に制定されました。防災の日が9月1日に制定された大きな理由としては、ちょうど100年前の1923年に大きな被害をもたらした『関東大震災』に由来しています。いつ発生するか予断を許さない首都圏直下型地震に備え、最大震度7の大地震が授業中に発生した場合を想定して訓練を行いました。まずは、机の下に身を隠して自分自身の身を守ります。その後、教職員による避難経路の安全確認や怪我をした児童の報告・搬送、校庭への第1次避難など、放送機器の故障も想定しているために全てトランシーバーによる伝達のみで実施しました。その後、校舎内の安全確認を行い、各教室を第2次避難場所として移動し訓練は終了しました。総合防災訓練はここまでとなりますが、有事の際にはその後、保護者の皆様にお子さんを引き渡します。

また、9月3日には、さちが丘地区地域防災訓練が本校で行われました。実際に地域に在住されている各自治会からの参加者を含めての訓練は4年ぶりに行われたということでした。避難者受付の流れや避難場所となる体育館の区割りテント、アマチュア無線、仮設トイレ、炊き出しの設営、防災備蓄品などについてローテーションを組みながら説明を聞いたり体験したりすることで、自然災害発生後の地域防災の役割や仕組みについて理解を深めるよい機会となりました。

日本では、地震や津波・高潮・台風・豪雨・洪水など、自然災害が多く発生しています。防災の日の目的には、自然災害に対する備えや対策を強化することが含まれています。防災対策に力を入れることが、災害による被害を未然に防止することや最小限に抑えることにつながります。各ご家庭の中でも、在宅時の被災による避難場所と避難ルートの確認や防災グッズの見直しなどをされたご家庭もあったのではないかと思います。

これからは、学校や家庭だけではなく、地域とともにある危機管理体制を構築していかなければならない時代であることを実感しました。

さて、10月に入ると本校の運動会「さちフェス2023」に向けて、様々な取組や練習が始まります。午前中開催は継続いたしますが、新型コロナウイルス5類移行に伴い、プログラム内容や保護者の皆様の参観方法や人数制限を見直しました。学校だより9月号でも触れましたが、「子どもたちにとってのよりよい学びの場」と「持続可能な取組」を視点として計画を立て、次年度以降のベースプランとします。実施後に何かご意見やご要望などありましたら、学校評価保護者アンケートにご記入いただければと思います。なお、詳細につきましては9/25配布済みの通知文書をお読みくださるようお願いいたします。

本校PTAの役員や委員の皆様、保護者ボランティアの皆様には、運動会のスムーズな進行に向けて準備や当日の運営に携わっていただくことになっており、感謝申し上げます。各ご家庭におかれましても、毎朝の健康観察、体育着や水筒の用意など、引き続きご協力よろしくようお願いいたします。